

履歴書

2023.12.2

「履歴書を郵送してください」決まった様式があればいいのだが、シンプルに履歴書と言われると困る。そういえば、文房具店に売っていたなと思い出した。待てよ、手書きは嫌だ。とりあえずネットで調べてみた。すると、厚生労働省から出ているもの、J I S規格のものなどが見つかった。ワード版にパワポ版、P D F版もある。便利である。これらをダウンロードする。

志願書ならば、教員になってからも何度か作成したことがある。履歴書を書くのは、教員になってからは初めてである。厚生労働省もJ I Sも、大きくは変わらない。履歴書に必要とされる要素は決まっている。

今年は、何度か似たようなものを作成してきた。自分が中学校を卒業したのが何年なのかわからない。教員免許状の授与年月日に自信がない。一つ一つ調べ、確認する。教員になってからのこととなると心配はない。なぜなら、教員履歴を残してきたからである。

教員になって3年目か4年目だったと思う。以前のことを思い出そうとしても自信がない。小教研で研究授業をやったのはいつだったか。急に焦ってきた。このままでは、いずれ何もわからなくなってしまふ。記憶は当てにならない。記録である。そこで、とりあえず、3年分の履歴を表にした。あとは、毎年、付け足していけばよい。この作業を30年以上も続けてきた。持続力のない私にしては自分をほめてあげたい。

この教員履歴が、今年になって、ようやく威力を発揮することとなった。どこどこで実践発表したのが何年度。何々の原稿を書いたのは何年度。何年度に務めた役職は何々。すべて、教員履歴を見れば解決した。作業をされていてわかったことがある。自分の記憶とのズレである。履歴を残してこなければ、膨大な調べもの、探しものとなっていたであろう。

今年、3年目のS S先生には、教員履歴を残していった方がいいよと伝えてある。きっとS S先生は、様々な役職に就いたり、実践発表をしたり、原稿を書いたりするであろう。そうなってほしいという期待もある。

積み上げてきた教員履歴は、9月18日に刊行となった書籍にも役立った。312ページと313ページに著者紹介がある。この2ページ分の原稿は、教員履歴がなかったら、もっともっと時間がかかったはずである。あるいは、掲載内容が変わっていたかもしれない。

来年からは、この教員履歴のバージョンアップ作業も楽になるだろう。入力するものがなくなるであろう。さびしいとは思わないが、今まで積み上げてきた自分の履歴には、これからも責任をもっていきたい。履歴書にしてしまうと数行のことだが、その重みとなると、また別の話である。教員履歴を残しておいて、本当によかった。心からそう思う。